第2学年2組 生活科学学習指導案

- 1 単元名 「町たんけん」に2」 ～ のりものによってしゅっぱつ ～
- 2 単元のねらい

乗り物を利用して遠くの町に出かけることを通して、公共物や公共の施設の利用のきまりやマナーがわかるとともに、そこでの施設や人に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げていくことができるようにする。

- 3 ひびき合う子どもたちを目指すための指導の工夫

(1) 単元と指導

本単元は、学習指導要領の内容(4)「公共物や公共施設の利用～公共物や公共施設はみんなのものであることや、それを支えている人々がいることが分かり、それらを大切にし、安全に気をつけて正しく利用することができるようにする」に基づいて設定した。

子どもたちは、自動車、バスや電車などの乗り物に乗ることが好きである。そして、電車やバスは子どもたちにとって身近な公共物である。しかし、駅やそこで働く人たちの様子を何気なく見ていたり、電車の切符の購入やバス運賃の支払いも家族の人にしてもらったりすることが多いと思われる。また、博物館などの公共の施設においても、公共施設として利用することや、その利用の仕方などについて、体験したり、考えたりする機会はあまりないのではないだろうか。

本単元は、自分たちで考え、判断し、体験する活動を数多く設定できる素材であると思われる。そして、電車の切符を自分の力で買って電車に乗ったり、駅や、公共の施設を探検したりすることは、子どもたちにとって、大変楽しく意欲的に取り組める活動になることが期待できる。

本単元は、これらの活動を通して、「自分にもできた」「また行ってみたい・利用したい」という自信と意欲を持った子どもたち、町や地域の良さを発見して愛着を持つことができた子どもたちの姿が期待でき、自分たちの生活をよりよくしていくための積極的な生活態度を育てていくことになるのではないかと考える。

生活科では、特に子どもの「思い」や「願い」を大切にしながら、具体的な活動や直接体験を中心とした学習活動を工夫していき、子どもが主体的に学習や生活に取り組めるようにしていきたいと考えた。そのために、生活科の学習における具体的な活動や直接体験の条件を整理した。

子どもの生活と直接つながりがあるもの。

子どもが興味を持ち、意欲的な取り組みが期待できるもの。

子どもの能力に適したもの。

子どもが五感を通して活動できるもの。

子どもが自分とのかかわりを見つけていけるもの。

子ども自身の手で連続・発展させていけるもの。

以上6つの条件を考慮しながら、本単元では、指導計画にあるような具体的な活動や直接体験となる活動を取り入れることにした。

また、グループ活動を中心に、子どもたち自身が計画を練っていく場面で、または、学級全体での話し合いの場面でのひびき合いが期待される。

2年では、『かかわり合うことで、「発見・驚き」「共感」を得、さらに自分の思いや考えを重ね、表現しながら高まっていく。』ことをひびき合いととらえた。

本単元の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ身近な環境や自分についての気付き
乗り物など公共物や公共の施設に関心をもち、安全に気をつけて正しく利用しようとしたり、さまざまな場所や人々に親しみをもってかわり自分の生活を広げたりしようとしている。	公共物や公共の施設の利用の仕方や、マナーの大切さが分かり、体験したことを工夫して表現することができる。	公共物や公共の施設のりべ b b 性、そこにかかわる人々や実際に利用することができた自分のよさなどに気づいている。

3 活動の流れ（全17時間扱い）

学 習 の 流 れ	評価の観点・評価方法・支援
探検に行く場所を決めよう。 行きたい場所について、行きたい理由を話し合いながら場所をいくつか絞っていく。 ・グループ作り 探検に行く準備をしよう。 計画を立てるために、必要なことを話し合う。 ・公共施設についての情報交換 ・公共施設までの行き方 ・できること ・公共施設までの所要時間 ・したいこと ・乗降駅・乗車場所 計画を立てるために分からないことを調べに行こう。 ・バスや電車への乗り方 ・ 乗り降りする場所、乗り降りの仕方 ・ 金額 ・ 乗っている時間 ・ 改札の通り方 ・ 駅の決まりや約束 など（本時） 最終準備をする。 ・用意するお金と購入の仕方確認 ・ 乗り方や、まちかた。 ・ マナー ・ しおり作り ・ 困ったことが起きたときの解決方法 ・ 席を譲るときの言葉のかけ方 など 公共の施設へいこう グループごとに目的地に向かう。 ・ 気づいたことをメモする。 ・ 分からないことは質問する。 ・ 挨拶や、お礼の言葉。 など	< 関 > 探検をすることに興味を持ち進んで計画を立てたり、準備をしたりしている。 (行動・発言) < 関 > 安全に気をつけ、進んで探検しようとしている。 < 思・表 > わからないことを聞いたり、施設などを調べたりしている。(発言・ワークシート) 探検に必要なことを考え、友だちと計画を立てたり、準備したりすることができる。 < 気 > 利用するときは、ルールやマナーを守らなければならないことに気づく。(ワークシート) 事前に公共の施設に活動計画を渡し、学習内容や、見学に行く日時を伝え、分かり易く説明してもらえるように依頼しておく。 しおりは、形式を決めず、各自の発想に任せる 公共の施設まで実地踏査し、それぞれの場所の実態を把握し、安全の確保に努める。 保護者へ活動の目的と内容を伝え、公共のマナーや安全のサポートをお願いし、協力を得る < 関 > 公共の施設に関心を持って利用している。(行動・発言) < 関 > 駅や車内、公共の施設で、回りの人の迷惑にならないようにみんなのことを考えて行動している。(行動・発言)

探検したことを発表しよう 発表会の準備をする。 ・探検して分かった公共施設の様子、ルールなどを知らせる準備をする。 ・発表会のリハーサルをする。 発表会を開く。 お礼の手紙を書く。 ・お世話になった人に、探検して気づいたことや分かったこと、感謝の気持ちを伝える手紙を書く。	< 思・表 > 安全に気をつけて、正しく利用することができる。(行動) < 気 > 公共の施設は自分たちだけでなく、たくさんの方が利用していることが分かる。 (行動・ワークシート) サポートの保護者にも入ってもらい、共感しながら話し合いが進むよう、事前に協力を依頼しておく。 話し合いの中で、自分の思いが活かされるような表現方法になるように助言する。 < 関 > 探検して分かった公共の施設の様子、ルールなどを分かり易く伝えるために、友だちと準備をしようとしている。(行動) < 関 > 発表会に積極的に参加しようとしている。(行動) 自分の気持ちを交えながら話している子を賞賛し、聞き手に伝わる話し方を助言する。 < 思・表 > 公共の施設を利用して分かったことや、楽しかったことなどを分かり易く発表することができる。(行動・資料・発表) < 気 > みんなで利用する公共物や公共の施設は、ルールやマナーを守って大切に使うことに気づいている。(ワークシート・発表)

4 本時について(6 / 17時間)

(1) 本時目標

調べたことをもとに目的地への行き方を話し合い、グループの計画を練り上げていくことができる。

(2) 本時展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 評 価
1 前時まで、決まったことを確認したり、みんなで話し合いたいことを発表する。 ・目的地への行き方を調べた。 ・時刻や移動時間を調べた。 ・バスで行ったらいいのか電車で行ったらいいのか決まらない。 ・バスと電車とではどちらが早くいけるのか。 2 本時の活動について知る 探検のための準備を進める。	・グループでまとめたものを掲示する。 ・「こまったな」「こうしたら」ボードに書かれたものを紹介する。 ・黒板やオープンスペースに資料を掲示し、いつでも調べられるように環境を整えておく。

「バス・電車どちらで行ったらよいか」考えを出し合う。 3 バス・電車のどちらで行ったらよいか。考えを出し合ひましょう。 <バス> ・すぐ近くにバス停がある。 箱根口 市民会館前 ・目的地の近くまで行くことができる。 <電車> ・バスよりも短い時間で行かれる。 ・バスより安い。 ・時間に遅れることがない。 <両方> ・乗り物の乗り方や、ルールを知りたいというのが目的だから。 4 グループごとに探検の計画を立てる ・バスの方が便利だからバス。 ・電車で行った方が近い。 ・行きと帰りを変えよう。 5 話し合っで決まったことや、困っていることなどを発表する。	・全体で話し合う前に、一人ひとりに考えをもたせる。 ・発言したことを分かり易く、板書で整理する。 ・時間、運賃、便利さなどが出てくることが考えられる。 ・ひとつの答えに絞るのではなく、グループで計画を練るための、参考になればよい。 【気】バス・電車のそれぞれの利点に気づくことができる。 ・まず、行き方（乗り物）についてきめさせる。 ・残った時間で、その他のことについて話し合わせる。 ・途中で、困ったことや、聞きたいことができたなら、ボードに貼らせる。 【思・表】探検のために、必要な準備を計画的に進めることができる。 ・まず、行き方（乗り物）について決まったことを報告させる。 ・困ったこと、相談したいことがあれば、発表させる。

本時の評価基準及び支援

	A	B	C（支援）
関心・意欲・態度	探検することに興味を持ち、自分なりの考えを抱きながら進んで計画を立てたり、準備をしたりしている。	探検することに興味を持ち、進んで計画を立てたり、準備をしたりしている。	話し合いの中で、自分の興味や関心につながるものを一緒にさがす。
思考・表現	探検に必要なことを調べ、公共物や公共の施設を利用するときのルールやマナー、困ったことが起きたときの解決方法を考えて、計画したり、準備したりすることができる。	探検に必要なことを調べ、友だちと計画を立てたり、準備したりすることができる。	探検に安全に楽しく行くためには、計画や準備が必要なことに気づかせる。ルールや、マナーに着目させる。

5 実践をおえて

< 成果と課題 >

ひびき合う子どもたちを目指すための指導の工夫

単元設定の工夫

- ・ 児童の実態から、興味関心や、知的好奇心を喚起する単元の構成を考えた。
- ・ 生活科ということもあり、児童の生活環境をとらえ、生活に生きるようにした。
- ・ 児童と共に単元を作る。児童が主役というテーマに迫るための考え方を念頭に置き、単元を作っていた。

学区探検という活動を体験し、「もっとたくさん探検をしたい。」「もっと遠くまで探検に行きたい。」という児童の願いと、バスや、電車に乗った経験が少ないという実態と、地域が、電車やバスという交通網が整備されている環境であるということと、指導要領のねらい、教師の願いが一致し、設定された単元であることから、児童は意欲的に、活動することができた。

友だち同士のひびき合いの場を多く設定する。

- ・ 同じ目的地に行く友だちで組んだグループ活動を中心にし、話し合いを進めた。
- ・ 「なやみ、そうだん、かいけつボード」を設置し、いつでも誰にでも相談できるようにした。一人ひとりが、調べたものを持ち寄り、リーダーが中心になり、話し合いをし、決めていくことができた。

「・・・かいけつボード」を設置したことにより、グループ以外の友だちにも、問題を投げ掛けることができ、それをみんなの問題として、話し合いを広げたり、深めたりすることができた。

本時では「電車と、バスのどちらで行ったらいいだろう。」という悩みを共有し、話し合いを進めることにより、電車とバスそれぞれの利便性に気づくことができた。このことは、実際に探検に行き、検証しまとめの話し合いでの話題になった。ひとつの悩みが、単元の最後まで、児童の思考の流れの中につながっていた。

< 課 題 >

「児童と共に単元を作る。」ともすると、児童の考えに振り回されてしまう。そうならないためにも、ここで身につけて欲しいことは、何かという目標をしっかりと持つことが大切であると、改めて思った。

生活科に関しては、年間の指導計画を児童の実態、生活環境等をとらえながら、作っていく必要があると感じた。